

| 科目名 | 開講時期 | 必修・選択 | 科目区分 | 単位（時間） | 科目責任者 |
|---|--|-------|------|-----------|---------|
| 成人看護学方法論 I | 2年次 前期 | 必修 | 講義 | 1単位（30時間） | 岩谷 正美 ※ |
| 授 業 概 要 | | | | | |
| 成人期にあり、循環・呼吸・内部環境調節機能に障害を持つ患者と家族の特徴を理解し、生命の維持・苦痛の緩和・回復に向けての看護について学ぶ。 | | | | | |
| 到 達 目 標 | | | | | |
| 1. 生命の危機的状況にある患者・家族の特徴と危機介入の方法を述べる。 2. 機能障害が患者・家族の健康と生活に及ぼす影響を理解し、援助方法を述べる。 3. 健康の回復に向けて対象が自己管理するための援助方法を述べる。 4. 治療処置にともなう援助技術を科学的根拠や原理原則に基づいて実施する。 | | | | | |
| 回 | 学 習 内 容 | | | | 担当教員 |
| 1-5 | 1. 生命の危機的状況にある患者・家族の特徴と看護 2. 循環機能障害を持つ対象の看護 1) 循環器疾患の主な症状と看護 2) 検査・治療を受ける患者の看護 3) 心不全・虚血性心疾患・不整脈・閉塞性動脈硬化症(下肢動脈閉塞症)・大動脈解離・血圧異常患者の看護 | | | | 岩谷 正美 ※ |
| 6-11 | 3. 呼吸機能障害を持つ対象の看護 1) 呼吸器疾患の主な症状と看護 2) 検査・治療を受ける患者の看護 3) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) ・気管支喘息・肺炎患者の看護 4. 演習 吸入・吸引・酸素療法 | | | | |
| 12-15 | 5. 内部環境調節機能に障害を持つ対象の看護 1) 急性腎不全患者の看護 2) 慢性腎不全患者の看護 3) 血液透析を受ける患者の看護 | | | | |
| 学 習 方 法 | | | | | |
| 講義・演習・グループワーク形式で進める。限られた時間で多くの内容について学ぶので、学習内容に関連する既習の知識については事前学習、自己学習が必要である。 | | | | | |
| 評 価 方 法 | | | | | |
| [評価方法] 小テスト・科目修了試験、演習及びレポートなどによる評価を行う。 評価の詳細は講義の初回に提示する。 | | | | | |
| 先 修 科 目 | | | | | |
| なし | | | | | |
| 教科書、参考書 | | | | | |
| [教科書] 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2] 呼吸器 川村雅文 他著 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3] 循環器 吉田俊子 他著 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 河邊博史 他著 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[1] 成人看護学総論 小松浩子 他著 医学書院 新体系看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 深井喜代子 編 メヂカルフレンド社 新体系看護学全書 経過別成人看護学③ 慢性期看護 黒江ゆり子 編 メヂカルフレンド社 厚生指標 国民衛生の動向 厚生統計協会 看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント 高木永子 監修 学研 今日の治療薬 解説と便覧 浦部晶夫 島田和幸 川合眞一 南江堂 検査値 早わかりガイド 江口正信他 医学芸術社 | | | | | |